

共同実証実験の概要について

2024年3月22日

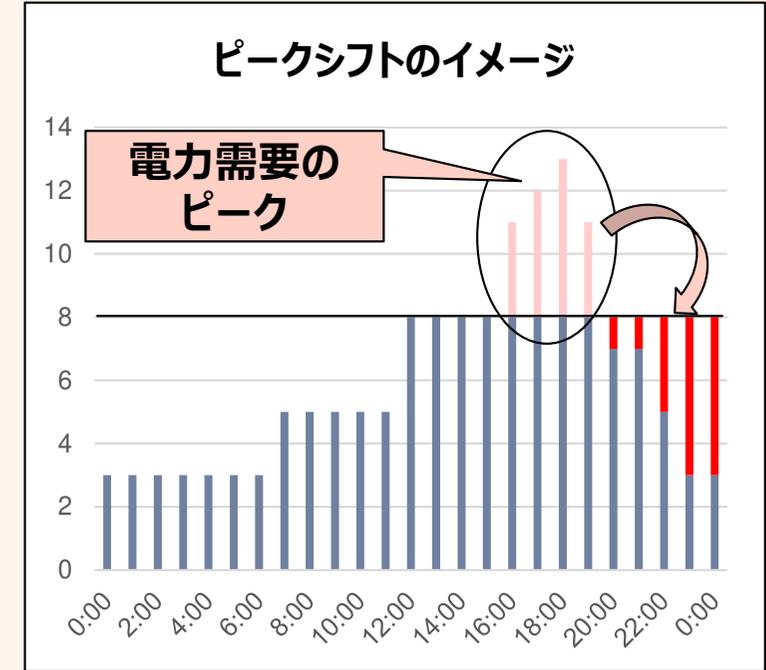
宮城交通株式会社
株式会社 EV モーターズ・ジャパン
Eneliver株式会社
東北電力株式会社

【課題①】充電による電力負荷の増加

- EVバスを充電する時間帯や台数によっては、使用する電力（電力需要のピーク）が増加する場合があります。

【実証内容】

- エネルギーマネジメントシステムにより充電の時間帯などを制御し、より効率的に充電することで電力需要を平準化します。
- さらに、エネルギーマネジメントの仕組みを踏まえた最適な電気料金プランを検討・提案いたします。



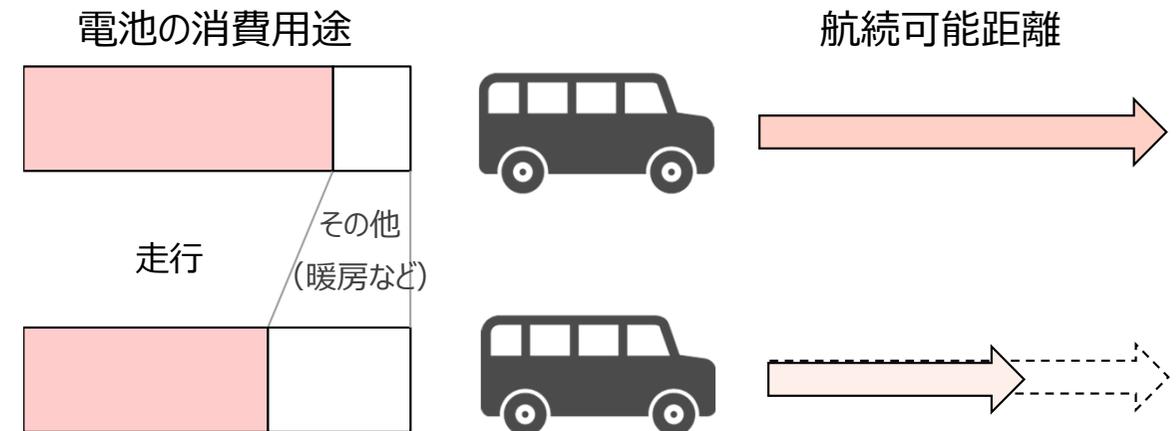
【課題②】暖房による電池消費の増加

- EVバスは走行以外のエアコンなどによる電池の消費が増えると、電費（ガソリン車などでの燃費）が悪化し、航続可能距離が短くなるケースがあります。特に、寒冷地においては冬季の暖房により電池の消費量が増加します。

【実証内容】

- 走行・充電データなどを収集・分析し、寒冷地に強い（＝走行時のエネルギー効率が良い）EVバスの開発に生かしてまいります。

電池の消費用途と航続可能距離の関係（例）



⇒走行以外の電池消費が増えると、航続可能距離が短くなる

2. 共同実証の役割分担について

- 本実証における、各社の役割分担は以下のとおり。



- 実証事業の統括
- 実証フィールドの電力データ収集・分析
- 最適な料金プランの提案

最適な料金
プランの提案

電力データの
収集・分析



EV Motors Japan

- 寒冷地に強いEVバスの開発に向けた走行・充電に関する各種データの収集・解析
- エネリバーとの通信試験



- エネルギー管理システム (Eneliver Cloud) の提供
- EV モーターズ・ジャパンとの通信試験

通信試験

システムの提供

充電器をシステム制御

走行・充電データの
収集

実証フィールド



- EVバスの運行を含めた実証フィールドの提供
- エネルギー管理システムの運用
- 意見要望のフィードバック

